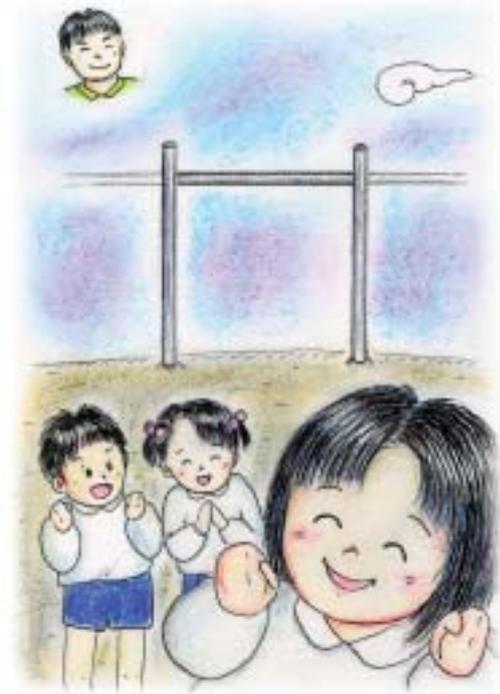


みっちゃんといつもと魔法の鉄棒

みっちゃんは、いつもニコニコ元気な子。
だけど、今日は元気がありません。
どうしたのかな。

今日の体育の時間、先生が言いました。
「今日は逆上がりをしましょう。」

「はい。」
上手に出来るお友達。始めはできなかったけど、できるようになって



たお友達。けれど、みっちゃんはとうとう最後までできません。みっちゃんはがんばりやさん。休み時間に仲良しのよっちゃんといつもと何回も何回も練習しました。それでもやっぱりできません。とうとう涙がでてきました。とってもとっても悔しかったんだね。

日曜日になりました。
トンカン・トンカンお庭から音がします。古くて使わなくなった道具で、お父さんが何か作っています。「何ができるのかな。」みっちゃん

はわくわくしながら見ています。「あれ？これってもしかして：鉄棒だ！」
「さあできたぞ、ちよっと回ってごらん。」汗を拭きながらお父さんがいいました。
みっちゃんは「エイ！」と地面をけりました。すると、お父さん

はみっちゃんの腰に手を添えて「ンレ！」
ぐるりと回るみっちゃん。お空がぐるんって近づいてくるみたい。とってもとってもいい気持ち。
みっちゃんはお父さんといっぱいいっぱいぐるりんしました。

今日は火曜日です。鉄棒の時間が出てきました。
さあ、みっちゃんの番です。
みっちゃんは思いっきり地面をけりました。すると...

よっちゃんが駆け寄ってきて言いました。
「よかったね。でも、どうしてできるようになったの。」

みっちゃんは嬉しそうにいいました。「魔法の鉄棒で練習したの。」
学校の帰り道、みっちゃんは畑にいるお父さんをみつめました。
そして、遠くにいるお父さんに向かって大きな声でいいました。
「おとうさん、逆上がりができたよ。」
おとうさんは、大きく大きく手を振って応えてくれました。

原作：村田美千代（二本木在住）
絵：草野美奈子（箱根ヶ崎在住）

創作童話募集

◆瑞穂町に在住、在勤、在学の方ならどなたでも結構です。
(ペンネーム可)

◆字数は400字詰め原稿用紙1〜2枚程度です。

◆ご興味のある方は議会事務局までご連絡ください。

編集後記

「人」が「憂う」と書いて「憂れる」とか「優しい」という意味になります。将来への不安や今抱えている悩み。きっとそれが「優れた制度」「優しさの溢れる人間」へ成長させる栄養なのでしょう。

私たち編集委員も、限られた文章では伝えきれないと「憂い」を持ちながら編集していきます。この度の議会だよりはいかがでしたか。ご意見ご感想をお寄せください。

(森 亘)